

地域医療課題解決演習

責 任 者・コーディネーター		医学部総合診療医学講座 下沖 収 教授	
担当講座・学科(分野)		(医学部) 総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野 (歯学部) 歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 口腔医学講座予防歯科学分野、法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 (薬学部) 臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 (看護学部) 地域包括ケア講座	
対象学年	全学年	区分・時間数	演習 16 時間 (1 コマ 2 時間換算)
期 間	通年		
単 位 数	1 単位		

・ねらい

学修方針：患者（対象者）を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者（住民）へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

教育効果：患者（対象者）や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナルリズムを理解し実践する力を身につけることができる。

施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につけることができる。併せて、多職種（専門職）連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につけることができる。

・学修目標

- 1.対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
- 2.グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
- 3.多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
- 4.課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
- 5.自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

B-2-2 多職種連携、B-3-1 地域の保健・医療

・学修事項

(学修事項を入力)

- (1) 日本及び地域における当該課題の概要とその背景
- (2) 他者の発言内容の意図を理解しようとする態度と能力
- (3) 相手の意見を尊重しつつ自身の考えや感情を適切に伝えるためのコミュニケーション

(4) 情報を収集しようとする姿勢と情報収集のための知識
(5) 地域医療及び他の職種に対する興味や関心および知識

・ この科目を学ぶために関連の強い科目

多職種連携のためのアカデミックリテラシー、情報科学、医療とコミュニケーション、医療と福祉

・ この科目を学んだ後につなげる科目

チーム医療リテラシー、4学部合同セミナー、多職種連携地域医療演習

・ 講義日程

(矢) 矢巾キャンパス・矢巾町役場等

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
第1回 6月 予定		5限 予定	総合診療医学講座 内科学講座脳神 経内科・老年科 分野 歯科補綴学講座 有床義歯・口腔 リハビリテーシ ョン学分野 法科学講座法歯 学・災害口腔医 学分野 臨床薬学講座地 域医療薬学分野 臨床薬学講座薬 学教育学分野 地域包括ケア講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 前田 哲也 教授 赤坂 博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 特任教授 白石 博久 特任教授 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教	オリエンテーションと概要講義 1. 科目の目標と全体構成を理解し説明 できる。 2. 日本における当該課題の概要を理解 し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解 し説明できる。
第2回 6月 予定		5限 予定			グループワーク (課題理解の共有) 1.地域における当該科目の概要理解に ついて、グループ内検討により、関わ り方の相違点・共通点を確認し自分の 言葉で説明できる。 2.メンバーが理解を共有できるよう、 必要なコミュニケーションを図ること ができる。
第3回 7月 予定		未定			施設等訪問、インタビュー 1.施設等でのフィールドワークによ り、実際の仕組みや課題背景等を説明 できる。 2.関係各職への敬意をもち、インタ ビューすることができる。
第4回 8月 予定		5限 予定			グループワーク (振り返り) 1.訪問・インタビューについて、自ら の言葉で振り返りを説明できる。 2.メンバーが課題等認識を共有でき るよう、コミュニケーションを図ること ができる。

第5回 9-10月 予定		未定			施設等訪問、インタビュー 1.施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2.関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。
第6回 11月 予定		5 限 予定	総合診療医学講座 内科学講座脳神 経内科・老年科 分野 歯科補綴学講座 有床義歯・口腔 リハビリテーシ ョン学分野 法科学講座法歯 学・災害口腔医 学分野 臨床薬学講座地 域医療薬学分野 臨床薬学講座薬 学教育学分野 地域包括ケア講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 前田 哲也 教授 赤坂 博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 特任教授 白石 博久 特任教授 岩淵 光子 教授 赤井 純子 助教	グループワーク（振り返り） 1.訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2.メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。
第7回 11月 予定		5 限 予定			グループワーク（プレゼンテーション作成） 1.グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。
第8回 12月 予定		5 限 予定			検討発表会・まとめ 1.当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2.自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。

ディプロマポリシーとこの科目関連  項目ごとに記号（◎、○、△）で示す

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	○
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	◎
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	○
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	△

評価事項とその方法（従来の記載方法も可能）

最終発表会を含め演習への参加態度評価（50%）、ルーブリックによるグループワーク等評価（30%）、成果物評価（20%）により評価する。								
到達目標	DP				ルーブリック	発表 参加態度	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1, 2, 3, 4	1, 2, 4, 6, 8	1, 2, 3, 5, 9	1, 2, 3	1, 2, 3, 7, 8	30	50	20	100
5	2	9	1	1				
合計					30	50	20	100

・特記事項・その他

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後4時間以上の学習を要する。

学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

開催日：別途調整のうえ指定 対 象：全学年（全学部） 会 場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等
＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30分以上の遅刻は欠席とする。

当該科目に関する実務経験の有無 有

行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。